

都市再生整備計画 事後評価シート
広川町中心市街地地区

平成30年 6月

福岡県 広川町


様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	福岡県		市町村名	広川町		地区名	広川町中心市街地地区			面積	63 ha		
交付期間	平成24年度～平成28年度		事後評価実施時期	平成29年度		交付対象事業費	563.6 百万円	国費率	0.4				
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名 道路(日吉芥神線、はなやぎ線)、地域生活基盤施設(古賀ポケットパーク)、高次都市施設(町民交流センター)										
		提案事業	地域創造支援事業(久泉野間線排水路整備事業)、まちづくり活動推進事業(まちづくりワークショップ、交流センターPRイベント事業)										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	事業名	削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響						
		提案事業											
	新たに追加した事業	基幹事業											
		提案事業	地域創造支援事業(中牟田地区排水路整備事業、防犯灯整備事業)	安全で安心して暮らせるまちづくりのため、必要な事業のため			影響なし						
交付期間の変更	当初	平成24年度～平成28年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響										
	変更	なし											
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	指標1	町民交流センターの利用者数	人/年	14,612	H23	36,500	H29	なし	28,668	△	ありなし ●	想定していた団体の利用が、最大利用時で設定していたため、目標が過大であった可能性が高い。	
	指標2	子育て支援センター事業参加者数	人/年	5,852	H23	9,800	H29	なし	9,501	△	ありなし ●	子育て支援センター設置後は、1万人を超える利用が実現しており目標を達成していた。しかし、近年、職が保育所に預ける傾向が高くなっており、センター離れが増加している。	
	指標3	ボランティア登録者数	人	291	H24	320	H29	なし	912	○	ありなし	ボランティアセンターの登録は順調に進んでおり、目標は大幅UPで達成した。今後は、ボランティアの有効な活用が課題となる。	
	指標4										ありなし		
指標5										ありなし			
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	その他の数値指標1												
	その他の数値指標2												
その他の数値指標3													
4) 定性的な効果発現状況													
5) 実施過程の評価	実施内容		実施状況									今後の対応方針等	
	モニタリング	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				
	住民参加プロセス	・まちづくりワークショップの開催 ・広川町協働推進計画の策定	都市再生整備計画に記載し、実施できた			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			● 広川町協働推進計画に基づき、住民主体の安全安心の取り組みを推進する。	
持続的なまちづくり体制の構築	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					


様式2-2 地区の概要

広川町中心市街地地区（福岡県 広川町）都市再生整備計画の成果概要


まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値	
大目標 町民が主役になった中心市街地としてのまちの顔づくり 目標1: 安全で安心して暮らせる魅力ある市街地の形成 目標2: 少子高齢化社会に対応した交流拠点の整備 目標3: 住民と共に担うまちづくりの推進	町民交流センターの利用者数	単位：人/年	14,612 H23	36,500 H29	28,668 H29
	子育て支援センター事業参加者数	単位：人/年	5,852 H23	9,800 H29	9,501 H29
	ボランティア登録者数	単位：人	291 H24	320 H29	912 H29
		単位：	H	H	H
		単位：	H	H	H



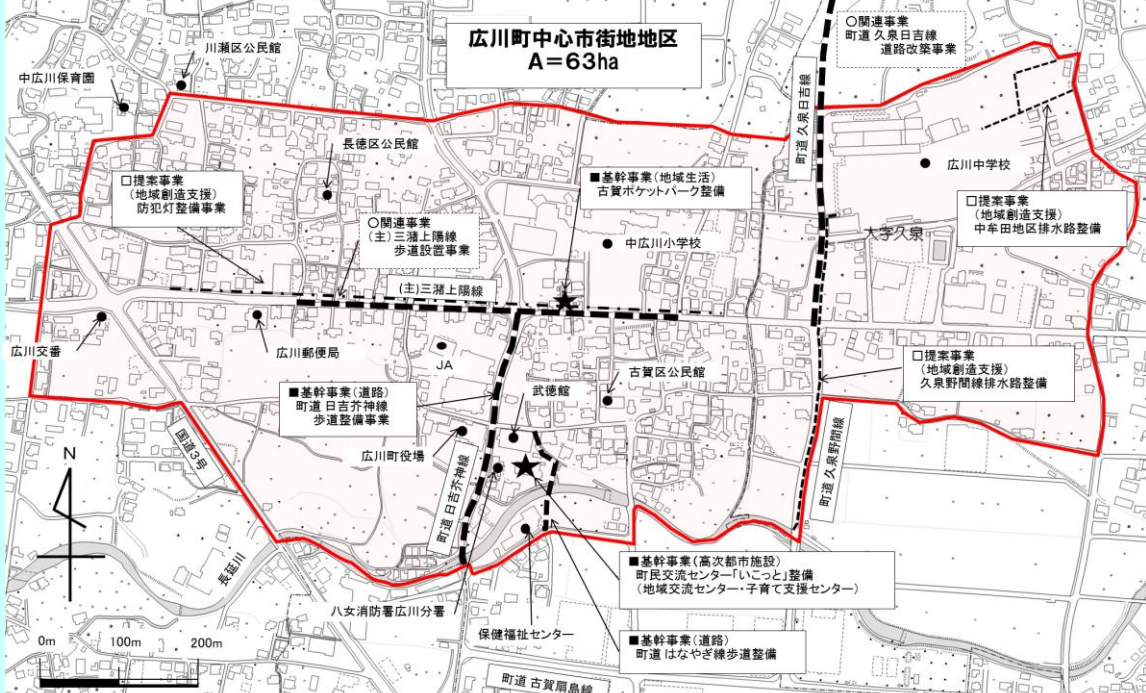
古賀ポケットパーク




役場周辺(町道日吉芥神線)




町民交流センター交流事業




**広川町中心市街地地区
A=63ha**



町民交流センター



はなやぎ橋



子育て支援センター事業

まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化した交流施設を廃止し、子育て支援センター及び図書館と交流施設が複合した「町民交流センター」が新たに整備され、中心地に町民の交流の場ができた。また、防犯灯の設置により、安全安心な地域づくりが創造できた。 ・広川中学校付近の浸水箇所については、下流の長延川に流す排水路の改修を進め、浸水箇所の改善が図られた。 ・はなやぎ線の歩道整備により、離れていたボランティアセンターと町民交流センターのアクセスが改善し、相互利用による相乗効果が生まれた。 ・協働推進計画の作成により、ボランティア育成が図られ、ボランティア登録が増加した。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地地区の中心部には広川町庁舎があり、防災拠点となっているが、老朽化が進んでおり、防災拠点としての機能に課題がある。このため、防災拠点の整備が急務となっている。 ・ボランティアセンターと交流施設は、歩道橋の整備等で連携が取れたが、ボランティアを求める側とボランティアのやりたいこととの差があり、マッチングが難しい。今後は、ボランティアの活用のためのコーディネートが重要である。 ・子育て支援センターの設置により、子どもを持つ親の悩み解消や相談の場として、多くの親子での交流が進んだ。一方で、働き方に対する意識の変化に伴い、0歳児より子どもを保育所に預ける者も出てきており、センター利用は減少傾向にある。 ・交流施設の利用の維持のためには、計画的なイベントの開催などが重要となる。 ・町民交流センター北側には、老朽化が進んでいる体育施設が残っており、庁舎を含めて公共施設の再整備の在り方が求められている。 ・広川町役場の西側は町の中心部でありながら、未開発となっており、当該区域の土地利用を再検討する必要がある。